ホツマツタヱ講座

ホツマツタヱ　前書き、 1～5アヤ(綾)　解説

ホツマツタヱ研究家　吉田六雄

自費出版の紹介

　この度、HPで公開しておりました当ホツマツタヱの奉呈文～5 アヤ(文)の解説に、6、7 アヤ(文)を追加し、更に、皆さんより知りたいとの希望により、ホツマの暦、また、伊吹山にかんする論文を追加し、下記のように 「ワカ(和歌)姫～天の岩戸事件の解説」と題した自費出版本の発行を準備中です。発行は 2020 年 12 月を予定しております。

　本の表紙

ホツマツタヱ

ワカ(和歌)姫～天の岩戸事件の解説
（ 奉呈文 ）　～　（ 7アヤ ）

～ヲシテ、原文の現在語訳付～

本の概要
　次の頁にはじめに、目次を記載しました。購読を希望の方は、下記までご連絡をお願いします。
　メールアドレス
ヲシテ <woshite@b09.itscom.net>

本のサンプル

ホツマツタヱ

ワカ（和歌）姫～天の岩戸事件の解説

（ 奉呈文 ）　～　（ 7アヤ ）

～ヲシテ、原文の現在語訳付～

ホツマツタヱ史学研究会
吉田六雄

2020 年 12 年 1 日

祝５０周年記念事業　ホツマツタエ再発見

ワカ（和歌）姫～天の岩戸事件の解説

（ 奉呈文 ） ～ （ 7アヤ ）

ホツマツタエ史学研究会　　吉田　六雄

本書の紹介

はじめに

日本の起源について、「語ること」も「思い出すこと」もない昨今である。だが、1991年2月に宮崎のテレビで見たニュースは、日本の起源を思い出させていた。その日は、建国記念の日であり、高千穂の神楽の踊りと宮崎神宮の参拝の風景を放送していた。私も九州の片田舎で育ったが、宮崎の神話の話は初耳であった。無理もないが、戦後生まれの団塊の世代である。横浜に帰ってから日本の起源について、古事記、日本書紀などの本を手にして見たが、初代天皇を起源とする天皇の御世が多く書かれ、日本の起源となる神話のできごとは希薄であり年代や暦日が極端に少なかった。それから私の研究テーマは、「古代日本はいつから始まったか」になった。その後も多くの歴史関係の書物、文庫本を読みあさっていた。

ある日、本屋で「ホツマツタエ」と言う本を捜し出していた。この本は、ヲシテと言う文字で書かれ、イサナギ、イサナミ以前に六代の神がおり、その神にも、天御祖神と言う神が居たことも記述されていた。また、注目されることは、丹後半島の天真名井で神上がりされていた「トヨケ神（タマキネ）」が、日高見を治められており、自分の姫（娘）の「イサコ」を「タカヒト（イサナミ）」と結ばせて、世継ぎのワカヒト（アマテル神）を生まれていた。そのワカヒトの誕生日は、古代暦のスス暦で21鈴125枝31穂と記述され、その後、多く出来事と年代、暦日が多く記述され、その神代の主は、アマテル神からオシヒト、キヨヒト、ウツキネ、カモヒトまで記述されていた。そして、建国記念の日の元となる主は、次のタケヒト（神武天皇）になる。

このような趣旨より、約26年前よりホツマツタエの解説を試みて来た。だが、文字はヲシテのため難解であり、また、文章は全文五七調で書かれており、五調と七調間のいわゆる行間の意味の解釈が困難であった。そのため、ホツマツタエの全文より類似語を捜して、難解語の意味を推測するのに多くの時間を費やしていた。また、ホツマツタエで不明な語は、辞書の解釈を引用することになった。

今回は、ホツマツタエに馴染んで頂くことを主眼に、約200頁にまとめ、結果的に、奉呈文～7アヤ（文）までの原文の現在語、解説本になった。

ホツマの年代

現在に残されているホツマツタヱの写本は、明治（1868 年）以前の江戸時代の安永 4 年（1775 年、第 10 代徳川家治）の写本である。そのため、ホツマツタヱの年代を時代考証すると、当然、縄文時代や弥生時代の呼称はないと言うか、含まれない。その代わり、ホツマツタヱの時代考証を進めると、ホツマツタヱ本に 2 つの暦があり、その暦を解読し、更に、神武天皇の御年 127 歳を解読することにより、シナ（支那）暦を元に国産化された暦を基準にして遡ることが可能となることが判明した。その遡り年の起点は、私の研究では紀元 399 年（履中天皇元年）になる。この遡り年を起点にして、ホツマツタヱに記述される年代を西暦に換算し説明することにした。代表例としては、アマテル神の生まれが紀元前 330 年、神武天皇の初年が紀元前 133 年となる。

ホツマツタヱとは

ホツマツタヱの言葉を初めて聞かれる方は、多分、二度聞きされたと思います。その私も同じでした。だが、この不思議な言葉に、平成 6 年 3 月に出会ってから今日まで約 26 年の付き合いになります。その魅力の一旦を紹介しますと、「ホツマツタヱには、アマテル神の生まれた頃の年代まで遡れる記述が残されていた。」ことです。そして、この記録も近代の資料と比べるとファジーですが、現在の統計、品質管理を応用しますと古代も層別され、自然科学、生理学と対比ができる記述が残されておりました。このようにして古代の年代を算出すると共に、ホツマツタヱ 40 アヤ（文）について、全文章を省略することなく全解説することにしました。なお、今回の発表は、7 アヤ（文）までですが、堪能して頂けると幸甚です。

一方、古代のことは、国書の古事記、日本書紀の神話を見れば済むと思いの方もいるかと思いますが、古事記、日本書紀の記録は、ホツマツタヱより大幅に文章が省略、抹消されております。そのため、古代の一次資料に近いのはホツマツタヱと思われます。是非、一度、ホツマツタヱを手にして頂けると幸甚です。

ホツマツタヱの作者

ホツマツタヱの４０アヤ（文）は、オオモノヌシ（職務）家の二人により編纂されております。前半の　　１アヤ（文）～２８アヤ（文）は、神武天皇の父君であるカモヒト（渚武鵜葺草葺不合）に仕えた、六代　　オオモノヌシ、ツルギの臣、三輪神でもあるワニヒコ（称え名：クシミヤタマ）により編纂されております。また、後半の２９アヤ（文）～４０アヤ（文）は、キソニエ（崇神天皇）などに仕えた、イハヒヌシ（斎主）、　三輪の臣のスエトシ（称え名：オオタタネコ）により編纂されております。

ホツマツタヱが奉納された経緯

第 12 代景行天皇のオミ（臣）であったオオタタネコは、「ホツマツタヱ」を編纂し、クニナヅ（伊勢神宮の神臣のオオカシマのこと）に示された。オオタタネコ、クニナヅの二人は、お互い「ホツマツタヱ」と「ミカサフミ」を持参して、奈良の三輪のオ

オモノヌシに示されて、二つの書について語られたと云う。そして、「ホツマツタヱ」を新たに書き写して、オオタタネコ、クニナヅの二家よりスメラギ（天皇）に献上された。この二つの典（フミ）について、昔、オオモノヌシが申されたことは、「昔より代々、典を受け取り、また新たに書き写して、後の世代の典として、滋賀県の淡宮に入れ置いた」典である。この典を読み取る人の思いはまちまちであるが、そのため、予め、皆で議論を尽くすが、百回千回も試みたが、未だ納得ができないと云う。

この「ホツマツタヱ」と「ミカサフミ」は、とても奥が深くて、恐らく、カミ（神）の道に入って学ばないと理解できないくらい難しい典のようである。そして、新たに写本が開始された「ホツマツタヱ」は、古墳時代の前期、西暦２６２年秋、景行五十五年、アスス八百四十三穂秋に完了し、スエトシ（オオタタネコ）より「ホツマツタヱお述ぶ」の法呈文を添えて、スメラギ（天皇）に献上されるに至った。

縄文、弥生時代の言葉

この本には、縄文、弥生時代の言葉は出て来ません。現在の歴史に慣れている人は、古代のことと言えば、「縄文時代や弥生時代」のことと思うのが一般的かと思う。だが、その縄文時代や弥生時代と名付けられたのは、1877 年、明治 10 年に来日した米国の動物学者のエドワード・S・モースが、大森貝塚から発掘した土器を Cord Marked Pottery と報告したことに始まると言われる。後に、Cord Marked Pottery は、「索紋土器」、「縄紋土器」、「縄文土器」と訳も変遷し、その後「縄文時代」に落ち着いたのは戦後と言われる。これが、日本の古代史の時代の名称の由来である。そのため、ホツマツタヱには、縄文、弥生時代の言葉は出て来ません。

本書の紹介

はじめに
ホツマの年代
ホツマツタエとは
ホツマツタエの作者
ホツマツタエが奉納された経緯
縄文、弥生時代の言葉

奉呈文～７アヤ（文） 1 頁
　アヤ（文）のヲシテ、カナ文字、原文の現在訳、解説
ホツマツタエお述ぶ　奉呈文 3 頁
ホツマツタエ御旗の初　東西の名と穂虫去るアヤ（文） 17 頁
ホツマツタエ御旗の二　天七代　床酒アヤ（文） 37 頁
ホツマツタエ御旗の三　一姫三男産む殿のアヤ（文） 55 頁
ホツマツタエ御旗の四　日の神の瑞御名のアヤ（文） 69 頁
ホツマツタエ御旗の五　和歌の枕詞のアヤ（文） 93 頁
ホツマツタエ御旗の六　日の神十二妃のアヤ（文） 111 頁
ホツマツタエ御旗の七　遺し書祥禍お立つアヤ（文） 127 頁

○今後、発表するアヤ（文）
　８～４０アヤ（文）
8. 魂返し　ハタレ討つアヤ（文）
9. 八雲打ち琴作るアヤ（文）
10. 鹿島立つ釣鯛のアヤ（文）
11. 三種神器譲り御受けのアヤ（文）
12. アキツ姫　天児のアヤ（文）
13. ワカヒコ　伊勢鈴鹿のアヤ（文）
14. 世嗣告る祝詞のアヤ（文）
15. 御食、万成り初めのアヤ（文）
16. 胎み慎む帯のアヤ（文）
17. 神鏡八咫の名のアヤ（文）
18. オノコロと呪ふのアヤ（文）
19（上）. 馭典―貫間のアヤ（文）
19（下）馭の典照妙のアヤ（文）
20. 皇孫十種得るアヤ（文）
21. 新治宮法定むアヤ（文）
22. オキツヒコ火水土の祓ひ

23. 御衣定め剱名のアヤ（文）
24. コエ国ハラミ山のアヤ（文）
25. 彦尊鉤お得るのアヤ（文）
26. ウガヤ葵桂のアヤ（文）
27. 御祖神船魂のアヤ（文）
28. 君臣遺法のアヤ（文）
29. タケヒト大和討ちのアヤ（文）
30. 天君都鳥のアヤ（文）
31. 直り神三輪神のアヤ（文）
32. 富士と淡海瑞のアヤ（文）
33. 神崇め疫病治すアヤ（文）
34. ミマキの御世任那のアヤ（文）
35. ヒボコ来る角力のアヤ（文）
36. ヤマト姫神鎮むアヤ（文）
37. 鶏合せ　橘のアヤ（文））
38. 日代の世熊襲討つアヤ（文）
39. ホツマ討ち　ツズ歌のアヤ（文）
40. 熱田神　世お辞むアヤ（文）

ホツマツタヱアヤ（文）　147 頁
　編纂群の分析結果

ホツマツタヱ暦　151 頁
　スス暦、アスス暦の暦日　153 頁
　スス暦、アスス暦の年表　（西暦換算、日本古代史年表）　163 頁
　スス暦、アスス暦の暦法　165 頁
　　スス暦の一日の長さの根拠、
　　アスス暦６ヶ月を１年、１２ヶ月を２年間とする根拠

ホツマ論文　181 頁
　モチタカ（イフキ神）と伊吹山の由来の考察

参考文献　189 頁